

令和 6 年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・**最終**)

音戸中学校区 校番 27 学校名 呉市立音戸小学校

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(1年間)経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 確かな学力	貫 (知) 「前より賢くなった！友達と学び合うことが楽しい」といえる児童の育成	①児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりを進める。 ②表現力を育成する ③個に応じた学習指導を工夫し、基礎学力の定着を図る。	○単元末テストは、全体の平均点は83点だった。低中高でみると低87点、中84点、高80点で、どの学年も達成している。教員の意識が高まり、授業の中に基礎・基本を定着するための活動を仕組んだ。 ○課題発見・解決学習に関わる学習意識調査の肯定的評価は91%だった。ノートを手段として、予想したり自分で考えたりする等授業の型を決めて全体で取り組んだことを継続して行った。 ○児童アンケート「以前と比べて自分のスピーチの言葉が増えたと思う。」の肯定的評価は83%、「以前と比べて人前で話すときに自信がもてるようになったと思う。」の肯定的評価は84%である。掲示等を行い、教員・児童共に意識できるように継続して行った。 ○個に応じた課題別学習意識調査では、教職員は100%、児童は84%だった。タブレット学習(キュビナ)が始まり、月1で教職員で活用状況を共有したことで成果が上がった。 ○特別支援の視点として、国・算の授業の始まりに毎時間同じ活動を取組を行ったことで、児童が見通しをもって学習を進めることができた。	○つまずきのある児童に、放課後等の少人数指導を継続する。 ○授業の始めに基礎基本タイム(国語:漢字、算数:算数用語や定義)を継続する。 ○自分の考えの広がりや深まりを実感できるようにするために、友達等の話をしっかりと聴かせ、「自分以外の意見にはノートの色を変えて記入する」指導を継続する。 ○教科書に示されている「言葉の力」を全学年掲示し、折に触れて活用することで、教員・児童共に意識することを継続する。 ○各学年のスピーチの内容を記録として残し、次年度以降活用できるようにする。 ○キュビナ活用の教員研修を行うと共に、児童にも目標をもたせ取り組ませる。 ○特別支援の視点として、授業(国語・算数)始めの時間の取組を設定しルーティン化することで「時間の構造化」を行う。ペアで確認をすることで「学習形態の工夫」につなげていくことを継続する。
** 豊かな心	(徳) 「友達好き・自分大好き・音戸大好き」な児童の育成	④自他のよさを認め合い、自尊感情、自己有用感を向上させる。 ⑤地域の人・もの・ことと関わり、活用し、感謝・貢献する意識を醸成する。	○挨拶に関しては、意識調査で、児童は94%と数値的には達成できていたが、保護者は96%だった。継続して自分から挨拶ができていないという課題がある。 ○クラスでの話し合い活動は、全学年で実施し、100%だった。言葉遣いや遊び方など、クラスの課題に対して、より良い解決方法を話し合うことができた。 ○児童が、親切な人、頑張った人を見つけた数値が79%だった。「自分には、いいところがあると思う」という児童の数値は、91%だった。「親切さんありがとう」BOXを活用し、頑張っている児童の姿を放送で伝え続けた効果が出てきている。 ○音戸町について学習した振り返りから、音戸町についての理解や興味を深めた割合は、88%だった。音戸町のよさを実際に言える児童を増やすことができる実感できる授業の工夫を行っていく必要がある。	○挨拶名人に選ばれた児童を中心に、挨拶を広めていく活動を実施していく。 ○クラスをよりよくするために、自分たちでできることを考え、実行する機会を引き続き行っていく。話し合いの中で、自分たちで考えてやっていこうという意欲をもてるようにしていく。 ○「親切さんありがとう」の活動で、引き続き給食放送の時間で紹介していく。また、児童が書いたカードを掲示して全校で見ることができるようになっていく。 ○地域学習について、年間を通したまとめを行い、振り返りを行っていく。また、次年度に向けて、引き続き教師自身が地域のことを知り、音戸のよさを実感できるように努めていく。
* 健やかな心身	(体) 「運動好き・給食好き・早起き音戸っ子」の育成	⑥基本的な生活習慣の確立を図る。 ⑦児童の運動意欲を高め、体力づくりを推進する。 ⑧児童の防災意識を高める。	○平日のメディアのきまり1時間以内を守ることができていた児童の割合は、6月86%、11月75%でめあてを意識して生活をする児童が多かった。げんきず週間中はきまりを守る児童が多いが、守ることができない児童や家庭への啓発に難しさがある。 ○くれチャレンジマッチスタジアムに全校で取り組んだ。走る、投げる、跳ぶのすべての種目で、各学年、前年度の記録を10%上回るよう、挑戦した。向上率の全校平均は、走る113%、投げる145%、跳ぶ156%だった。最終日も全校体育を行って記録を更新し、児童、担任も達成感を味わうことができた。 ○全学年、火災、土砂災害、地震、津波、不審者対応の指導を計画通り実施できた。1年生の参観日ではひろしまタイムラインの作成を保護者と一緒に行ったり、他学年でも情報をアップデートし、保護者に避難場所や音戸で起こりやすい災害等を確認してもらうことができた。	○来年度も情報モラル学習を継続して行っていく。課題のある保護者の意識を変えることができるよう、PTA総会、講演会、入学説明会等で基本的生活習慣の重要性を説明し、保護者にも協力を得られるよう、指導の工夫を行う。 ○来年度もキャンペーン期間を設け、各学年3種目以上の入賞をめざし、全校で取り組む。また、学年で得意な種目のポイントを体育朝会等で紹介することで、さらなる体力の向上を図っていく。 ○来年度も引き続き、地域と共に防災教育を進めていく。他教科とも関連させながら、防災や安全に関して、行動の仕方や災害等についてより理解が深まる指導を行い、各学年のファイルに資料等を保存していく。
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮し、健康でやりがいを持って働くことができる教育環境の整備	⑨児童と向き合う時間の確保 ⑩長時間労働の縮減	○「児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合」は前回67%だったが今回100%であった。効果的だった取組は、12月の成績処理期間に計画的に「早日課」や「5時間授業」を取り入れたことである。早めに計画したので授業時数を確保しながら、4時間授業1回、5時間授業6回を行うことができた。また、月・木曜日以外の放課後及び学校行事後は、会議・研修を入れないことも継続した。校務支援システムの操作等の対応は教務部が中心となって研修を進め、スムーズに使用できるようになったことも成果である。 ○課題として、時間外勤務を減らすための手立て、「すいすい水曜日」の実施が十分でないことがあげられる。「水曜日は18時に施錠することへの意識を高め、自分の仕事をコントロールしながら進めていけるようにしていく。	○全教職員で意識して「児童と向き合う時間」を確保する。 ・学期末・学年末は「早日課」「5時間授業」を計画的に行っていく。 ・打ち合わせ会、企画委員会は時間を決めて進める。 ・アンケートなど授業外でのICT活用を増やし、時間短縮を意識する。 ・分掌部会で業務を振り分ける等、主任等に業務が集中しないようにする。 ・学校全体で、行事を精選・簡略化する意識をもち、保護者、地域にも理解を求める。 ・「水曜日は18時に施錠することの意義を繰り返し伝え、学校全体で実行できるようにする。